

理学療法基礎評価学

《担当者名》 佐々木祐二 y-sasaki@hoku-iryo-u.ac.jp 武田涼子 阿部隆宏 只石朋仁 中村宅雄 佐藤一成 多田菊代
谷口翔平 用田歩

【概要】

理学療法評価は、効果的かつ安全な理学療法を実施するための基盤となる重要な理学療法プロセスである。本科目では、理学療法基礎評価学 で学修した基本的評価技術を基盤として、神経系評価、体幹機能評価、バランス・協調性検査、定量的測定など、より応用的な評価手法について学修する。講義および演習を通して、評価結果を統合・解釈し、理学療法プログラム立案につなげるための評価能力の基礎を養う。

【学修目標】

<一般目標>

理学療法基礎評価学 で修得した基本的評価技術を基盤として、応用的な検査・測定法を理解し、適切に実施できる能力を身につける。

<行動目標>

1. 理学療法評価の意義と目的を説明できる。
2. 体幹を含む関節可動域（ROM）測定および徒手筋力検査（MMT）を実施できる。
3. 感覚検査、反射検査、筋緊張検査の目的を説明し、基本的手技を実施できる。
4. 脳神経検査および片麻痺機能検査の目的を説明し、基本的手技を実施できる。
5. 協調性検査、バランス検査および定量的測定も目的を説明し、基本的評価ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ） 2	触診	体幹などの触診	佐々木祐二・武田涼子・ 谷口翔平・用田歩
3 ） 4	関節可動域（ROM）	関節可動域（ROM）の測定 頸部・胸腰部など	多田菊代・阿部隆宏・只 石朋仁・中村宅雄
5 ） 6	筋力検査	徒手筋力検査（MMT）の実施 頭部・頸部・体幹	佐々木祐二・阿部隆宏・ 佐藤一成・谷口翔平
7 ） 8	感覚検査	感覚検査の実施 触覚・痛覚・深部感覚など	中村宅雄・佐々木祐二・ 只石朋仁・佐藤一成
9 ） 10	反射・筋緊張検査	反射検査、筋緊張検査の実施 深部反射、被動性検査など	用田歩・佐々木祐二・多 田菊代・谷口翔平
11 ） 12	反射・筋緊張検査	反射検査、筋緊張検査の実施 病的反射、表在反射、MASなど	用田歩・佐々木祐二・多 田菊代・谷口翔平
13 ） 14	総合演習	感覚、反射、筋緊張検査に関する総合演習を行う。	担当者全員
15 ） 16	脳神経検査・姿勢反射検査	脳神経検査・姿勢反射検査の実施	佐藤一成・阿部隆宏・只 石朋仁・中村宅雄
17 ） 18	片麻痺機能検査	片麻痺機能検査の実施	佐藤一成・阿部隆宏・只 石朋仁・用田歩
19	定量的測定	定量的測定の実施 粗大筋力・握力・HHDなど	佐藤一成・佐々木祐二・ 只石朋仁・用田歩

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
20			
21 22	協調性検査	協調性検査の実施	只石朋仁・阿部隆宏・中村宅雄・多田菊代
23 24	バランス検査	バランス検査の実施 平衡反応、BBSなど	谷口翔平・中村宅雄・佐藤一成・用田歩
25 26	総合演習	脳神経・片麻痺機能・協調性・バランス検査に関する総合演習を行う。	担当者全員
27 28	総合演習	感覚、反射、筋緊張検査に関する確認（実技小テスト）を行う。	担当者全員
29 30	バイタルサイン	呼吸数、聴診などの測定	阿部隆宏・多田菊代・武田涼子・谷口翔平

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

授業内小テスト 15%

実技小テスト 20%

筆記試験 50%

課題・レポート 15%

試験に関するフィードバックの方法

- ・授業内小テスト：実施後に模範解答を提示する。
- ・実技小テスト：試験実施後、全体に対するフィードバックを行う。
希望者に対しては個別にフィードバックする。
- ・筆記試験：希望者に対しては個別にフィードバックする。
希望者は事前に担当者に連絡を入れること

【参考書】

畠中泰彦 編 「PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析」 羊土社 2015年

月城慶一 他 訳 「観察による歩行分析」 医学書院 2005年

上月正博 他 編著 「リハビリテーションにおける評価 Ver.3」 医歯薬出版 2016年

才藤栄一 監修 「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定 編」 金原出版 2015年

【備考】

実習で使用するため、打診器を購入すること。

【学修の準備】

予習は、授業内容に必要な解剖学および運動学に関する知識の復習に加え、指定された教科書を用いて次回授業範囲の検査内容を確認すること（80分）。

復習は、授業で学修した内容について、配布資料、講義メモ、教科書および参考図書を活用し、実技練習を含めて理解を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）理学療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

佐々木祐二（理学療法士） 武田涼子（理学療法士） 阿部隆宏（理学療法士） 只石朋仁（理学療法士） 中村宅雄（理学療法士）

(2026年度・リハビリテーション科学部)

法士) 佐藤一成(理学療法士) 多田菊代(理学療法士) 谷口翔平(理学療法士) 用田歩(理学療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、理学療法プロセスの基礎となる評価の方法について、基本的知識の講義及び実技を指導する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している